

(別紙 7)

## 京都府におけるジビエ利用拡大を考慮した狩猟者の育成に係る評価報告

### 1 狩猟者の現状や課題等

猟期中のニホンジカ・イノシシの年間捕獲頭数は約 3 万頭に上るが、利活用されるものは全体の 1 割程度と低く、地域資源としての有効活用化が望まれている。府内では 2 つのジビエコンソーシアム（京都中丹認証ジビエ推進コンソーシアム、京都丹波・大阪北摂 連携ジビエモデル構想協議会）が利活用の倍増をめざし都市圏への販路拡大等に取り組んでいる。一方、安定供給体制を確立するため、ジビエの解体処理施設を核とした狩猟者の育成が課題となっている。

### 2 1 の課題等に対応するため、本事業で実施した取組内容

ニホンジカやイノシシを食用として利用するために必要な知識及び技能を持つ狩猟者を育成することを目的とした、研修実施体制の構築に取り組んだ。

【内容】府内の先進的なジビエ処理施設に赴き、ジビエ搬入が進まない問題点を洗い出し、今後の研修実施に向けた検討を行った。

注：実施した研修会等の内容及び参加人数等を記入すること。

### 3 2 の取組に対する評価と今後の課題等

ジビエ処理施設の捕獲個体受け入れ条件や受け入れの際の作業内容、搬入を行っている狩猟者数等の現状について把握し、今後の狩猟者育成のための周知方法や研修内容について、理解ができた。

狩猟者を育成するためには、捕獲技術の向上のみならず、受け入れ条件に直接関係する止め刺し技術や衛生的な搬入技術の習得など、反復練習や高度な理解力が必要であるため、広くかつ繰り返し周知できる体制が必要である。

狩猟初心者は、すぐにジビエの安定供給体制に寄与するわけではないため、今後も継続して研修等を実施していくことが必要となる。

また、概ね 1 時間以内の搬入を義務づけている施設も多いことから、安定供給のた

めには、地域ごとに取組ができるように各所に拠点となる施設を増設していかなければならない。

注：1の課題等も踏まえ、取組の評価を具体的に記入すること。  
また、評価を通じ明らかになった今後の課題等についても記入すること。

#### 4 その他

真に安定供給体制を確立するためには、ブランド力の強化によってジビエ生産を魅力ある地域産業に育てていくことも必要である。地域ジビエ認証である京都中丹認証ジビエ制度の枠を府内全域に拡大し、「京都ジビエ」と呼ぶにふさわしい認証ジビエの安定供給に向けた取組への発展を本事業の継続で進めて行きたい。

注：特記すべき事項があれば記入すること。